

【学位論文審査の要旨】

「オルタナティブメディア」とは、マスメディアでは網羅されない情報の受発信を担うメディアである。ネットワークが浸透した現代社会においては、オルタナティブメディアに不特定多数の市民の参加を促し、情報の受発信を委ねる重要性が指摘されており、その実践の場としてのソーシャルメディアが注目されている。

ソーシャルメディアでは、ユーザが情報の受発信に主体的に関与することから、そこで生成されるコンテンツには、事象に対するユーザの多様な感性が言語化され、内在することがある。さらにそれらのコンテンツは、他のユーザの共感を得ることでコミュニティに共有されていく。こうしたソーシャルメディアの特性は、ユーザの興味関心に必ずしも合致しない情報についての知覚を促し、新たな知見を提供する可能性を持つ。この点は、前述したオルタナティブメディアの概念に合致する。

しかしながら、ソーシャルメディアにおける情報の理解は、アプリケーションのウェブユーザインタフェース(WUI)と、ユーザのメディア・リテラシーに依存している。つまり、ユーザのメディア・リテラシーの程度によっては、コンテンツが十分に「意識化」されず、前述したソーシャルメディアの特性が活かされないおそれがある。従って、コンテンツの意識化を促進するために、ユーザのメディア・リテラシーを支援する適切な情報デザインをWUIに施すことが求められる。このことによって、前述したソーシャルメディアの特性を強化し、質の高いオルタナティブメディアを実践することができる。

ここまでの議論を踏まえ、本論文の著者は、研究目的を「ソーシャルメディア・コンテンツの意識化を促進する情報デザインの創出」と定め、コンテンツに内在する「ユーザの感性」に着目する情報デザインを、3つのケーススタディの実践を通して検討した。

まず、「つながりの活用促進」に対するリテラシーを支援する情報デザインを検討した。これまで独立したウェブサイトに掲載されていた「コンテンツ」を、TwitterのWUI上で閲覧できるようにし、コンテンツの閲覧性を高め、ユーザの共感を得やすくした。この手法により、ユーザ間の情報伝播コミュニケーションが活性化し、コンテンツが活発に拡散されていたことから、提案する情報デザイン手法によって「つながり」の活用が促進されたと結論付けた。

次いで、「集合知におけるコンテンツの時制」に対するリテラシーを支援する情報デザインを検討した。主観的情報 / 客観的情報による集合知の分類表示と、ツイートのネガポジ判定結果に基づき、コンテンツに内在する感情の視覚化を組み合わせ、速報性・話題性に依拠しない、非同期的な情報提示を行った。この手法で制作した作品の鑑賞者の行動を分析したところ、時制横断的な社会意識・背景についての議論が生み出されており、時間情報とコンテンツを包括的に把握することが補助されていた。このことから、提案する情報デザイン手法によって「集合知におけるコンテンツの時制」に対するリテラシーが支援されることを示した。

さらに、「集合知における言葉の特徴」に対するリテラシーを支援する情報デザインを検

討した。Twitter 上のコミュニケーションには「話し言葉性」と「書き言葉性」が混在しており、さらに「対人性」も必須ではない。こうした「言葉の特徴」を引き立たせるために、ウェブ集合知の横断検索結果をツリー状の WUI で表現し、さらにコンテンツが内在する感情を色彩で示した。この手法で制作した作品の鑑賞者を対象として、「ユーザに知覚されやすい言葉」を調査した結果、これまで気づかれていなかった言葉の発見が促されており、「集合知における言葉の特徴」に対するリテラシーが支援されたと結論付けた。

以上のように、本論文ではまず、綿密なサーベイをもとにして、オルタナティブメディアの概念を再定義している。次いで、現代社会において重要な情報受発信の場となりつつあるソーシャルメディアの特性を分析し、そのコンテンツの「意識化」の促進を、オルタナティブメディアの実践における課題として定めている。さらに、その課題を解決する手法を、情報デザインの観点から提案し、具体的なケーススタディを通して、それらの妥当性を示している。

本論文の著者が創出した情報デザイン手法は、「つながりの活用促進」「集合知におけるコンテンツの時制・言葉の特徴」に内在する「感性」についてのリテラシーを高める。このことにより、ソーシャルメディア・コンテンツの意識化が促され、オルタナティブメディアとしての特性が強化される。その結果、オルタナティブメディアに不特定多数の市民の参加を促す場が創出され、既存のメディアでは埋没していた、社会における多様な事象を人々に伝えることができるようになる。

こうした本論文の成果は、多様な課題を抱える現代社会において、市民の意見の多様性・透明性の確保に大きく貢献すると考えられる。よって、博士（芸術工学）の学位を授与するに十分な価値があると認められる。